

プラント状況確認結果(平成25年2月12日～2月19日)

平成25年 2月 19日
福島県原子力安全対策課

○ 平成25年2月12日～2月19日12時までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所1～4号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりです。

⇒ この期間において、不具合等の連絡を2件(特記事項参照)を受けましたが、プラントの新たな異常はありませんでした。

また、発電所敷地境界モニタリングポスト、発電所専用港内の海水中の放射性セシウム濃度には、有意な変動は見られませんでした。

(1) プラント状況(2月19日午前5時)

| 場所 | 目的 | 監視項目 | 1号機 | 2号機 | 3号機 | 4号機 ^{※2} |
|----------------------------|--------|--|-----------------------|--------|--------|-------------------|
| 原子炉 ^{※1} (核燃料) | 冷却 | 注水量 (m ³ /h) | 4.4 | 5.3 | 5.4 | — |
| | | 圧力容器 下部温度(°C) | 18.4 | 32.3 | 31.4 | — |
| | 未臨界確認 | キセノン135濃度 (Bq/cm ³)(A系) | 1.96×10 ⁻³ | 検出限界未満 | 検出限界未満 | — |
| 圧力容器 | 水素爆発防止 | 窒素充填 | 充填中 | 充填中 | 充填中 | — |
| 格納容器 | | 水素濃度 (A系)(体積%) | 0.00 | 0.04 | 0.16 | — |
| 使用済燃料 プール | 冷却 | 水温(°C) | 10.5 | 11.9 | 9.5 | 21 |

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉に燃料が入っていないため空欄。

(2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(2月19日午前10時)

最小 2.8(MP-6)～最大 6.4(MP-7) マイクロシーベルト/時 ⇒[計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港内の海水中のセシウム137濃度の測定結果(2月18日採取分)

最小 7.3(物揚場前)～最大 55(4号機スクリーン(シルフェンス内側)) ベクレル/リットル

【特記事項】

- ・2月13日 2月7日に3号機使用済燃料プールにおいて燃料交換機マストと思われるがれきが水没した事象について、水中カメラによる調査の結果、マストは約10mに伸びた状態で燃料ラック上に横たわっており、燃料には直接接触しておらず、また不安定な状態とはなっていないことが確認された。今後、プール内の他の大型がれきを撤去するタイミングでの撤去を予定している。
- ・2月14日 3号機使用済燃料プールスキマサージタンク水位については、直接測定ができないため、配管にかかる圧力値から水位に換算していたが、12月に実施した配管清掃によって圧力値に変化が生じ、これまでの換算式では正しい水位が求められないことが2月13日に判明した。このため、新たな換算式への見直しを行った。

【参考】

- ・2月16日 5,6号機の建屋内滞留水を処理するために屋外に設置している淡水化装置において、19時36分頃、移送していた水が水槽からオーバーフローした。ただちに移送ポンプを停止させたが、約20m³が地表面に漏えいした(分析したセシウム137は0.13Bq/cm³であり、周辺監視区域外の水中の濃度限度(告示濃度限度)0.09Bq/cm³の約1.5倍に相当)。なお、周辺に排水溝等はなく、海洋への流出はなかった。また、オーバーフローした原因については調査中。

(問い合わせ 024-521-1917)